瀬田利浩さん(父)、瀬田翔一馬さん(子)が親子で日本代表!!

2023アジアパシフィックゾーンチャンピオンシップトーナメント優勝、2023コルトリーグワールドシリーズ世界ベスト4に輝く

日本ポニーベースボール協会に加盟する中学生硬式野球チーム「将門ベースボールクラブ」の瀬田利浩監督が硬式野球ポニーリーグの日本代表チームのコーチとして、また、同チームの瀬田翔一馬選手がU-16コルトの部の日本代表18名の中に選ばれ、6月に千葉県で開催された「アジアパシフィックゾーンチャンピオンシップ コルトの部」に出場しました。アジア大会は、トーナメント形式で行われた大会で、日本のほかにフィリピン、オーストラリア、中国（2チーム）、香港の計6チームが出場。見事に優勝し、ワールドシリーズの出場権を獲得いたしました。

7月にアジアパシフィックゾーンの代表として出場した「ワールドシリーズ」（アメリカ イリノイ州で開催）では、世界10チームが戦い、ベスト4という輝かしい成績を収めました。おめでとうございます。

◆ばんどう文芸◆

短歌

今井　清　選

惣領われ祖父母や父母やはらからにつくした日々の短さを知る　みむら　倉持　一枝

青空に浮いて成りいる熟柿よ冬の野鳥の獺祭（だっさい）となる　平八新田　吉岡　耿

生前の母をよく知る人の来て遺影に向かひおれも百歳までと　駒　跣　内海　妙子

境内のいちょう大木見上げつつ子らと語れる亡夫（つま）の十三回忌　半　谷　木村惠美子

伴侶逝き涙に暮れた年となり心やさしい孫に癒さる　長　谷　滝本　和子

散歩にも妻の遺影をポケットに無口な友の律儀さ偲ぶ　長　谷　荒井　勝

気づいたらいつからかしら夫へも敬語で話すわたくしがいる　大　口　池田　富枝

むずかる子小児病室の母親はなだめつつ歩く深夜の廊下　岩　井　臺　登美男

お湯わかすかけっぱなしで息子から雷落ちて無事セーフなり　菅　谷　根芝　貞夫

思春期の少女はひそかタマゴ持つはずかしそうに誇らしそうに　みむら　倉持　紀子

サザンカの花びら散らす木枯らしよ仕事増やすな妻の手借りる　長　谷　後藤　守

家族らの生れ日印す初暦ひたすら願う健やかなるを　沓　掛　木村　愛子

柿の木も樫も我が家になけれども風やみし庭に落葉散り敷く　山　栗原ヤヱ子

【評】一首目、「短さを」が一生の思いをしみじみとさせる。作者は九十六歳。二首目、「獺」（カワウソ）は採った食べ物を並べおく習性がある。正岡子規も自宅を「獺祭書屋」というほど言葉の知識が豊富であった。柿から子規を連想させる気の利いた歌になった。三、四、五首目、身内の挽歌、素朴な詠み方に心惹かれる。最後の歌、隣の家の木の葉が自分の屋敷に散っているのを迷惑などとは思っていないだろう。風情を楽しんでいる心情が伺われる。

短歌の作品を募集します！

皆さんからの短歌を広く募集します。投稿される方は、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、**掲載希望月の前月20日までに届くように**選者宛にお送りください。なお、俳句につきましては、当面の間お休みさせていただきます。

選者　今井　清　〒306－0604　幸田新田435　☎0297(35)2864